

令和6年水産林務委員会開催状況

開催年月日 令和6年1月10日（水）

質問者 日本共産党 丸山 はるみ 委員

答弁者 水産基盤整備担当局長、水産振興課長

| 質問要旨 | 答弁要旨 |
|---|--|
| <p>一 北電伊達火発休止に伴うマツカワ種苗生産への影響について</p> <p>北海道電力伊達火力発電所が本年3月までに休止することに伴いまして、飼育用の海水供給が途絶えることから、高級カレイのマツカワの種苗生産施設である「北海道栽培漁業伊達センター」が休止されるということがありました。この現況についてお聞きしていきたいと思えます。かつては北海道沿岸で年に数10tほどの漁獲があったこのマツカワですけれども、その後1tにも満たない水揚げとなったときもありました。「幻のサカナ」と呼ばれるようになったマツカワですけれども、2006年度にこの「伊達センター」で100万尾の種苗生産が開始されたことと承知しています。</p> <p>(一) マツカワ漁獲量において栽培漁業が果たす役割について</p> <p>北海道水産現勢によりますと、2008年のマツカワの漁獲量については126tとなっており、以降順調にその量を伸ばし、2022年には163tとなったところでありますけれども、2020年に115tと漁獲量が減少していますが、その理由として考えられることについて、お答えいただきたいと思えます。</p> <p>(二) 道栽培漁業伊達センターへの伊達火発休止の影響について</p> <p>マツカワの漁獲量が伸びてきたと、その要因については、種苗生産がすごく役立っているということが今の答弁からも分かるんですけれども、そうしますとですね、伊達火力発電所の休止によるマツカワの種苗生産への影響について、道内のマツカワの今後の漁獲量について、どのような影響が出るとお考えなのかお答えください。</p> <p>(三) 2025年以降のマツカワ種苗生産について</p> <p>私もマツカワは食べたことが無いですけど、色々な人にお聞きしますと、とてもおいしい魚だと聞いています。</p> <p>今後のマツカワの種苗生産について、えりも以西栽培漁業振興推進協議会より道と道議会への要請があったことと承知しています。</p> <p>年間100万尾の放流を続けていくために、当面の対応と、それから2025年度以降はどのように取り組むお考えなのか。伊達センターで海水の取水ができるようにするというのが、最善の方法ではないかと考えていますけれども、道の見解はいかがでしょう。</p> <p>そして、仮に別の場所にマツカワの種苗生産を移すとすれば、種苗生産のための設備、人材、技術など課題が様々あると思えますけれども、今後のマツカワの種苗生産の見通しについても伺います。</p> | <p>○ 佐々木水産振興課長</p> <p>漁獲量が減少した要因についてであります。試験研究機関の調査によると、本道のマツカワは、資源の約9割が人工種苗放流により造成されているものとされ、道内では100万尾規模の放流の継続により、近年の漁獲量が160トン前後と安定的に推移しておりますが、2017年に伊達センターにおいて、稚魚の大量へい死が発生し、種苗放流数が約7万尾にとどまったことが、2020年の漁獲量が大きく減少した主な要因と考えられております。</p> <p>○ 佐々木水産振興課長</p> <p>マツカワ種苗生産などへの影響についてであります。伊達センターの整備にあたっては、自前の海水取水施設を設けず、隣接する北海道電力の伊達火力発電所から冷却用に取水している海水の一部を提供してもらい、飼育水として種苗生産に利用しており、発電所の休止に伴い、北電が海水の取水を停止した場合、現状ではマツカワの種苗生産ができない状況となります。</p> <p>マツカワ資源の大部分が人工種苗放流により造成されていることから、道としては、放流事業が実施できなければ、今後、漁獲量が大幅に減少し、漁業経営に大きな影響が生じるものと考えております。</p> <p>○ 藤田水産基盤整備担当局長</p> <p>今後のマツカワ種苗生産等についてでございますが、マツカワは太平洋沿岸の貴重な資源となっております。資源造成を図っていくためには、地域の拠点となっている伊達センターにおいて、種苗を安定的に生産し、放流を継続していくことが重要であり、昨年11月、えりも以西協議会からも道に対して、種苗生産と放流事業の継続について、強い要請があったところでございます。</p> <p>このため、道では、マツカワ資源への影響が最小限となるよう、次年度以降の事業に向けて、協議会や伊達センターの運営を受託している北海道栽培漁業振興公社と連携しながら、引き続き、飼育海水の確保に関し、北電と協議を重ねるほか、伊達センターにおける種苗生産・放流事業が継続できるよう、新たな海水の取水方法に加え、他のセンターとの連携によるバックアップ体制などについて、総合的に検討を進めてまいります。</p> |

| 質 問 要 旨 | 答 弁 要 旨 |
|---|---------|
| <p>(指摘)</p> <p>私の地元の議員から、マツカワについてはブランド化の取組が行われており、種苗生産を伊達センターで継続してほしいと強い要望が地元からあると聞いています。</p> <p>今日の答弁の中では、マツカワが太平洋沿岸の貴重な資源であると、今後も伊達センターにおいて種苗生産し、放流を続けていくことが重要という道の認識が示されたということは、地元の人にとって、一定程度安心できる内容だと捉えております。</p> <p>しかしながら、通常3月からマツカワの採卵作業が開始されると、私、勉強したんですけれども、そういった中で、今後の取水について、現時点で協議中ということについては、少々心許ないと言わざるを得ないと思います。</p> <p>マツカワの種苗生産を伊達センターでですね、今後も継続できるように取組を強めていただく必要とともに、地元からは財政的な支援の要望もあったと聞いております。</p> <p>十分な対応も必要だということを指摘をいたしまして、本日の質問を終わります。</p> | |